

「えっ？ 受けたことないの？」
健康に気をつかう次男は毎年健診やがん検診を受けている。
上の2人はというと、「まあ元氣だから大丈夫じゃ」と、受けようとしなない。
「元氣だから」、「通院しているから」、「時間がないから」という理由からか、総社市の国保特定健診やがん検診の受診率は極めて低い状況である。
なぜ、健診を受ける必要があるのか。それは生活習慣病の予防のため。糖尿病、高脂血症、心臓病などは自覚症状が出にくいのが特徴である。体に異変を感じてからでは遅い。
「早く受けたほうがいいよ。何かあってからじゃ遅いよ」と、次男は勧める。
定期的に健診を受けていれば病気の早期発見や自己管理につながるのだが……。
「まだええじゃろ」
その油断が……。



特定健診とは
40歳から74歳までの人を対象に、尿検査や血液検査、血圧測定など、体の全体的な健康状態をチェックする「健康診断」のことです。

全国的に受診率が低い総社市
■総社市の国民健康保険の特定健診受診率

年齢	男性	女性	受診率
40歳代	12.6%	12.2%	12.4%
50歳代	14.1%	23.3%	19.2%
60歳代	27.7%	32.7%	30.4%
70～74歳	31.3%	33.7%	32.5%
全体	25.6%	30.2%	28.0%

(平成23年度)
※全国平均(32.7%)と比べると大きく下回っている。

特集 あなたの命が危ない そのままでもいいのですか？ あの時、健診を受けていれば……



この物語は事例を基にしたフィクションです

毎年、「健診」を受けていますか？
受けていない人の命が危ない。
体の全体的な健康状態をチェックする特定健康診査（以下、健診）は、定期的に受診しないと取り返しがつかないことになります。
この物語の結末のように……。
市内のとある3兄弟の話です。
長男は農業を営む50歳。
長女は47歳の専業主婦。
45歳の次男は自営業。
ある日、3兄弟が集まった。
話のネタは仕事のこと、家族のこと……。そして、一番盛り上がったのは健康のこと。
「健診の案内が届くけど、行った方がいいのかなあ」と長女。長男は「そういえば毎年市から来たつたつけ」と、無関心。
国民健康保険に加入している3人には、市で行っている健診の案内が毎年届く。